

平成 29 年度 校内研修計画

山梨市立笛川小学校

1 学校課題

平成 28 年度に牧丘・三富の 4 つの小学校が統合して 1 年経過し、2 年目を迎えた。統合前の平成 27 年度の 1 年間に児童会活動や学年ごとに合同の学習活動などで交流の機会をもったことや、学校外の習い事やスポ少などで顔見知りの児童もいたことで、人間関係の構築をスムーズに行えた児童が多かった。しかし、学年の人数が多くなったことで戸惑いや集団に馴染めない児童もいた。また、地元の中学校へ進学してもクラス替えがないことから人間関係が固定してしまうのではないかと心配している保護者もあり、その解消に向けた取り組みが求められている。

昨年度、コミュニティ・スクールとしての取り組みにより、地域とつながった教育活動がいくつか芽吹きつつある。それらの活動を本校の実践例として育て形作り、地域へのアプローチの仕方や組織作りなどノウハウを蓄積し、地域とのつながりのある魅力ある学校づくりをめざしていく必要がある。

2 研究主題

「学び合い、考えを高め合う子供の育成」
～ICT を活用した主体的で対話的な学びのあり方～

3 主題設定の理由

本校は、統合前の平成 27 年度より、文部科学省の「少子化・人口減少に対応した活力ある学校教育推進事業」の研究指定を受けている。本年度が 3 年目でありまとめの年となる。昨年度の校内研では、タブレットを中心とした ICT 機器を活用した授業で、子供たち同士の考えを交流し合いながら課題解決の協働を図る研究を行った。研究を通して、ICT 機器を学習の道具の一つとして活用したことで学習への意欲が高められたこと、多様な考え方に触れられたことなどの成果があった。研究を進めていく中で、edutab システム（同期型 CSCL システム）を活用できる環境が整備され、協働的な学習を進めることが可能になった。

ICT にかかわって、文部科学省の研究指定の他にも今年度から山梨市 ICT 教育研究指定を受けている。これは、主に校務支援ソフト、学習支援ソフトを導入し、事務や学校教育を効率的に進めることを目指している。児童と向き合う時間の確保や、教材研究の充実、学び合いの充実を図ることにつながる。このことを含めて、本校はこれまでの研究の成果を広めていく役割を担うこととなるであろう。

そこで本年度の研究は、統合による ICT 機器や環境の充実したことや、ICT 機器を活用しようとする教員の意欲が高まったことなどから、ICT 機器の活用を取り入れた教科や場面が増えており、ICT 機器を媒介として、知識の広がりや思考の高まりを目指していきたい。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 研究の内容

- ア ICT 機器を活用した学び合いや考えを高め合う授業づくり
 - ・各教科において、ICT 機器の効果的な活用を工夫する。
 - ・実践を公開し合い、授業力を高める。
- イ 学習環境づくり
 - ・学習集団づくり…学級力向上プロジェクトの活用、Q-U の活用
 - ・学習習慣の確立…学習規律の徹底
 - ・さわやかタイムの有効活用、家庭学習の充実

(2) 研究の方法

- ア 基本的には全体会での研究を行うが、内容によってはブロック（低学年、高学年）に分かれて研究を深める。
- イ 研究授業をブロックごと 1 本行う。（指導主事招聘）
- ウ 一人一実践の授業公開を行う。（ブロック内で参観し合う。）
- エ ICT 機器の活用に関わり、学習会を設けたり、日常的に学び合ったりする。

5 年間研修計画

	月	日	内容	備考
①	4	12	研究の方向性	全体会
②	4	19	研究主題, 研究内容, 研究計画等の決定	全体会
③	5	17	ICT 機器の学習会, 理論研究	全体会(TC)
④	5	31	学級力向上プロジェクト・Q-U分析(1回目)	全体会 ブロック
⑤	6	21	学習会 模擬授業	全体会
	7	19	WG①	機能別
⑥	8	18	教育課程研究協議会の還流報告	全体会
⑦	9	6	授業案づくり	ブロック
⑧	9	13	授業案づくり	ブロック
⑨	10	11	授業案検討	全体会
⑩	10	18	授業研究①	全体会TC
⑪	10	25	授業案検討	全体会
⑫	11	8	授業研究②	全体会TC
⑬	11	15	学級力向上プロジェクト・Q-U分析(2回目)	ブロック
⑭	12	13	ブロックのまとめ	ブロック
	12	20	WG②	機能別
⑮	1	31	学級力向上プロジェクト分析(3回目)	ブロック
⑯	2	21	研究のまとめについて	全体会
⑰	2	28	研究のまとめ	全体会
⑱	3	7	研究紀要作成	全体会